

中国の奇書「金瓶梅」について

中国の古典小説の多くは、14世紀から18世紀、明、清の時代に書かれた。中国の四大奇書とか五大小説とか言われるが、

- 14世紀 「三国志演義」(羅漢中) 歴史のひとこまを秀れた人間ドラマとして、再構成した、歴史小説。劉備、関羽、張飛による三国の戦い。
- 「水滸伝」(施耐庵) 荒々しさに満ちた無法者の集団の活躍をいきいきと描いた活劇小説。宋大尉と108人豪傑、梁山泊に陣取る。
- 16世紀 「西遊記」(呉承恩) 人智を超越した空想の面白さ、略1千年にわたり練り上げられた探検、旅行記。三蔵法師、孫悟空、猪八戒、沙悟浄印度から経典を持ち帰る途中の難事を描いた。
- 「金瓶梅」(笑笑生) 日常生活を描きながら、人の心の深い闇を覗かせる、凄味に満ちたこの作品は、度々の発禁の憂き目をみながら400年間読み続けられてきた。まさに奇書中、第一等といえる。薬屋 西門慶と6人の妾との日常、常軌を逸した性描写と官商としての手腕、彼の周囲を取り巻く連中とのやりとり。

ここまでの4作品を一般的には、中国の4大奇書と言い、

- 18世紀 「紅樓夢」(曹雪芹) 名門貴族の末裔賈宝玉と林黛玉の恋愛を中心とした12人の娘達高貴な生活を描いた中国古典小説の中の最高峰に位置づけられる。

この「紅樓夢」を加えてこれを中国5大小説と言う。但し、私見を述べればこれに加えて蒲松齡の「聊齋志異」を加えて6大小説と言うべきだと思う。

1. 「金瓶梅」この小説の構成

「金瓶梅」は、そもそも「水滸伝」の中の1つのエピソードにすぎない西門慶と潘金蓮の物語から出発している。「水滸伝」では武松に殺されてしまう二人を、死んだのは実は別人だったとして、100回の物語を続けて行く。短いエピソードを100回の物語に引き伸ばし、まったく別の物語を描いたものである。

(上)、(中)、(下) 3巻 約1300頁

(上) 巻。武大、武松、潘金蓮のからみ。隣家の花子虚の女房李瓶児との密通、小物来旺の女房宋惠蓮、を物にする、廓の李柱姐が奥様の妹分にしてもらう事、

(中) 巻。県の知事、蔡太師、提刑官、役人、都東京の重職たちの縁故をひろげる。李瓶官可を生むが潘金蓮が猫を使って殺してしまう、李瓶児は悲しみのあまり病気となり死ぬ。番頭韓道国の女房王六児と関係を持つ、梵僧から媚薬と膏薬をもらう。西門慶が提刑官に昇進する。官商としての腕を思う存分発起する。

(下) 巻。西門慶が林夫人とその息子の女房に手を出す、西門慶が情欲の為、病に掛かる、西門慶の娘婿が親父の妾に手を出しはじめる、西門慶は死ぬ。番頭、小物、使用人はバラバラとなり妾達、女中も売りに出される。西門慶の生存中の妾達の日頃の怨みがここに爆発離散後も娘婿陳經濟との因果応報が続く、最後に河岸のヤクザ張勝に陳經濟は殺される。普静和尚が亡者どもを済度する、時恰も金軍が宋に入り、山東省も危険が及ぶが、なんとか落ち着き本妻呉月娘児の子孝可を出家さし、齢70歳で死ぬ。

2. この小説の舞台

時代は金が宋を侵略し始め、宋の国力も衰え、政治は極めて緩んでいた時代

士農工商なんと言っても官が強いとは故、緩んだ政治につけこみ、商人が官に漬け込み、官が商売を影で手引きし、官商が力をつけ莫大な利益を貪った。官位も容易に手に入れた。

高官の転勤、昇格、誕生日、その他の祝い、時候の挨拶には沢山の贈り物、銀子を持つて挨拶に及ぶのが常識でその額の多さで、後々の思し召しが決まった。

高官、大人、は妾を何人もかかえるのが常識であったし、廓へ出かけるのは常だった。

高級な廓、料亭がかしこにあり、妓女、娼女、舞子、歌手があふれていた。

大家では、多くの小物、小僧、女中がいてこの女中は奴隷として5両から、器量よしで13両から15両位で売り買いされていた。良家の夫人、や妾でも主人がなくなるとすぐ売りが出され主人の格、器量により値段が決まった。中國の美人の対象はただ顔が美しいだけでなく、纏足で如何に、小さく形の良い脚の形をしているかが問題で、不発育の赤ん坊のような足が魅力とされた。後に清の時代になり纏足は禁止されたが、清の時代はぼつくりになた履物だったのでよなよなと歩く姿は同じであった。

3. 主な登場人物

西門慶 (シーメン・チン) 山東省清賀県の薬商の二代目。質屋、糸屋、呉服屋等手広く商売の手を広げる。一方、県の提刑所の官職。

呉月娘 (ウー・ユエニャン) 正夫人。後妻。呉千戸の娘。玉蕭 (女中)、小玉 (少女)

李嬌兒 (リー・チアオル) 第二夫人。もと廓の芸妓。会計を受け持つ。

孟玉楼 (モン・ユローウ) 第三夫人。もと呉服商の未亡人。蘭香 (女中)

孫雪娥 (スン・シユエオ) 第四夫人。元西門慶の娘の小間使。下男の妻達を指図して炊事を受け持つ。

潘金蓮 (バン・チンリエン) 第五夫人。もと仕立て屋の娘。大家の小間使い、武大に嫁ぐが西門慶と通じて、夫を毒殺、西門家に入る。

李瓶兒 (リー・ピンアル) 第六夫人。もと梁中書の子。花太監 (宦官) の甥花子虚の正室となり、夫とともに西門慶の隣に移り住んだが西門慶と通じ、夫の死後、西門家に入る。迎春 (女中)、綉春 (少女)

春梅 (チュンメイ) 潘金蓮つきの女中・秋菊 (少女) 炊事係。

陳經濟 (チェン・チンチー) 西門慶の婿。質店を預かる。

西門の娘

玳安 (タイアン) 小者。

平安 (ピンアン) 小者。門番。

書童 (シュートン) 小者。美少年。

来保 (ライパオ) 下男。都への使者。宰相蔡京により校尉、官職をもらう。

恵祥 (ホイシアン) 来保の妻。

来旺 (ライワン) 下男。江南の織物を買付け役、後に謀られて郷里に追放される。

宋恵蓮 (ソン・ホイリエン) 来旺の妻。夫の留守中、西門慶と通じる。夫が追放された後自殺。

来興 (ライシン) 下男。

傳 (フー) 番頭。

賁四 (ペンスー) 番頭。

韓道国 (ハン・タオクォ) 糸店の番頭。

王六兒 (ワン・リウアル) その妻。

李柱姐（リー・コイチエ）廓の芸妓。李桂児の姪。
呉銀児（ウー・イウル）廓の技芸。花子虚の元圀者。
応伯爵（イン・ポーチュエ）西門慶の取り巻き。
謝大（シエダイ）西門慶の取り巻き。
呉大舅（ウー・ターチウ）呉月娘の長兄・親譲りの千戸の職につる。
楊婆（ヤン・ポー）周旋屋、女中、
王婆（ワン・ポー）武大の隣の茶店の婆さん。周旋屋。
薛嫂（シエ・サオ）花簪売り。周旋屋。

4. 小説の心随

- 西門慶の持つ二重人格性、あくなき性欲と金欲、官職を利用した悪行。
- 日常生活の中における、女性の身なり、着物から髪飾り、簪、装飾品、靴におよぶ繊細な観察描写。
- ㄨ この時代の有閑階級の飲み、食い、請客（チンゴ）誕生祝いをはじめ、毎月何回かの大小の宴会が生活のすべてであった。
- 料理についても、なにかあると、すぐ20品あまりの、豚の頭、、鶏、鮮魚、干し物、果物、果実のたね、が用意され、それが毎日である。
- 酒についても、朝からあおり、国内のあちらこちらから届く名酒を女も男も酒杯で何杯も飲む。
- 6人の妾と廓の女さらに番頭の妻達をはじめ目につく女はことごとく犯す、問題が起これば提刑官（裁判を司る役職）のたちばで、各所に賄賂をつかい事無きを得る。
- 妾どうしの愛憎、嫌がらせ、いじめは、そもそもすぎましいものがあり、奴隷で買われてきた者は年中叩かれ、人間扱いされない。
- 使用人もこれにめげずに妾達に誘いをかけ、姦通する。
- 婿の陳経済は義父の妾にチョツカイを出す。
- 妾同士のレスビアン、主人、小者達の小僧（美少年）に対する男色もあたりまえ。
- 西門慶の死後、一家は没落していき、妾達も売り払われる。
- ㄨ 因果応報、妾達も売られた先の環境で、身分がかわり、婿の陳経済も落ちぶれるが奴隷の春梅に拾われるが、春梅は肺病で病死、陳経済も河岸のならず者に殺される。
- 最後は、本妻の呉月娘が家にもどり、番頭の玳安を西門安と改名して家業を継がせ、老後をみてもらい、70歳をもってめでたく一生を終える。